

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	0970700241
法人名	社団医療法人 英静会
事業所名	グループホーム 憩のもり
訪問調査日	平成 21 年 10 月 15 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 29 日
評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0970700241
法人名	社団医療法人 英静会
事業所名	グループホーム 憩のもり
所在地	栃木県日光市根室 607 番地 7 (電話) 0288-32-2006

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県宇都宮市大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成21年10月15日	評価確定日	平成21年10月29日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	84,000 円	その他の経費	・理美容代 2,000円(実費) ・おむつ代 165円(実費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	 	昼食	
	夕食	 	おやつ	
または1日当たり 1,520円				

(4) 利用者の概要(8月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87	最低 79 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森病院 ・ いわせ歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は社団医療法人[英静会]が経営母体で、同法人の介護老人保健施設が隣接している。道路の向い側には今市青少年スポーツセンターがあり、森に囲まれた閑静な場所にある。開設9年目を迎え「ゆったり」「楽しく」「いっしょに」を理念として、職員は施設のスタッフであると同時に共同生活者として一緒に生活している。共用型通所介護の指定を受けて2年になり、利用者同士円満な関係で生活している。近隣には民家はなく日常的な交流が難しい場所にあるが、地域の人々と接する機会やボランティアを多く受け入れたり、地域の行事に積極的に参加し交流に努めている。職員は、看護師、介護福祉士、ホームヘルパーの資格を持ち全員が常勤の職員である。地域の人々や家族と一緒に地域全体で支援していく地域密着型の事業所として全職員が積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	従来の3つの合言葉に新たに地域密着型としての理念を付け加え明文化した。今年度、消防計画書(震災・水災を含む)を作成し10月1日から計画書に添って実施していくことになっている。評価を活かし職員が利用者と共に過ごす時間を多く持つように工夫をして、ゆったりと利用者と一緒に過ごす時間の確保に努め実践している。
重点項目②	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	共用型通所介護の実施を機に地域とのかかわりについて考え話し合う機会が増えた。今回の自己評価は管理者を中心に全職員で作成した。
重点項目③	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表、地域住民、ボランティア代表、民生委員、包括支援センター、市の担当者が参加し開催している。7月の会議では「重度(化)入居者の対応について」を議題とし意見交換が行われた。家族からも積極的な意見が出されるようになりサービスの向上に活かしている。会議は地域ボランティアの方々や育成会の子ども達も参加して行う流しそめんなどの行事に併せて開催したり、利用者の日常生活をビデオで見たいたりしている。運営推進会議は2ヶ月に1回の定期開催と、出席者は所定のメンバー以外に議題に応じて柔軟に選定される事と、評価結果を踏まえ「目標達成計画」を作成して運営推進会議の委員にモニター役をお願いし、着実に実行されることを併せて期待します。
重点項目④	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入所時に公的機関や事業所内の苦情受付担当者も知らせている。運営推進会議では、「室内での活動が少ない」「元気に歩ける人のケアが薄いのではないかなど」家族からも率直な意見が出されるような雰囲気になってきており、改善に向けて取り組んでいる。利用者の近況や金銭の報告は訪問時や電話、郵送で報告している。月1回発行している広報紙「いこい」には事業所の動きが分かる内容で家族に配布している。
重点項目④	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	そば祭り、どんど焼きなどの地域の行事に参加したり、うどん打ち、饅頭作り、生け花など地域のボランティアを受け入れ交流を持っている。夏には流しそめんを育成会の子ども達の参加を得て実施したり、地域の保育園との交流も持っている。買い物はスーパーだけでなく商店にも立ち寄り、地域の農家に野菜の収穫に行ったりしている。また、地域の事業所と一緒に笹堀に行き事業所間の交流をしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の3つの合言葉「ゆったり」「楽しく」「いっしょに」地域の中で生活するところであるとし、憩のもりの約束を具体的に6項目挙げ「利用者」「職員」の立場を明記している。地域の一員として受け入れられる地域密着型としての理念を今回新たに加えたものを作成した。	○	従来の理念に事業所が目指す地域密着型としてのサービスのあり方を具体的に分かりやすく表現しています。職員、利用者、家族、地域の方々にも一目で分かるようなものとして目に付きやすいところに掲示し共有されることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の職員はスタッフであると同時に共同生活者であるとし、ケアを「してもらった」「してあげた」でなく利用者・地域住民と一緒にケアをしていくという理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のそば祭り、どんど焼き、地域ボランティアのうどん打ち、饅頭づくり、生け花、夏には流しそうめんを子ども達の参加を得て実施したり、地域の保育園との交流も持っている。買い物もスーパーだけでなく商店にも立ち寄り、地域の農家に野菜を収穫に行ったりし、積極的に地域との交流を持ち理念の実践に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	共用型通所介護の実施を機に、地域とのかかわりなどについて考え話し合う機会が多くなり、今回の自己評価は管理者を中心に全職員で作成した。職員が利用者と共に過ごす時間を多く持つように夕食の副食、清掃も外部の業者に依頼するなどの工夫をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域住民、ボランティア代表、民生委員、包括支援センター、市の担当者が参加し3ヶ月に1回開催している。7月の会議には「重度(化)入居者の対応について」を議題とし意見交換が行われた。行事についても提案し地域住民、ボランティアの協力を得る機会になっている。家族からも積極的な意見が出されておりサービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回の定期開催に期待します。出席者は所定のメンバー以外に議題に応じて柔軟に選定されることを期待します。評価結果を踏まえて「目標達成計画」を作成し、運営推進会議の委員にモニター役をお願いして、着実に実行されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告や利用状況報告、制度上の相談など市の介護保険課に積極的に出向いている。また、地域福祉権利擁護事業の対象利用者がいるため市の福祉課を通し司法書士との連携を持ちアドバイスを受けている。外部評価の改善点についても市の担当者との連携を取り改善に努めたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時、電話や郵送などで利用者の近況や金銭などの報告をしている。職員が交代で広報紙「いこい」を毎月発行して家族に配布している。事業所の行事など日常生活の様子分かるような内容で行事に家族の参加を毎回呼びかけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に公的機関や事業所内の苦情受付担当者も知らせているが、現在まで利用されたことはない。運営推進会議に参加する家族からも積極的な意見が出されるような雰囲気になってきており「室内での活動が少ない」「元気に歩ける人のケアが薄いのではないか」などの意見も出され改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については事業所の広報紙で家族に知らせたり、家族が訪問した折に報告している。今年も定年退職者や同法人内の異動があったが、利用者とお別れ会などの行事は行っていない。異動後も訪問する機会があるが、利用者の状況からダメージは受けていないとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の法人内の研修には交代で参加している。最近、嚙下障害についての研修会が行われた。外部研修は勤務の関係で参加する機会が少ないため勤務調整をしながら参加できる体制作りをしていきたい意向を持っている。、休日などを利用して自主的に研修会に参加し研鑽を積んでいる職員もいる。	○	職員のレベルアップと利用者に対するサービス向上を目的とした年間研修計画を作成し、職員の勤務体制を調整しながら外部の研修にも参加できる機会を作り、研修した内容を全職員で共有されることを期待します。休日などを利用した自主研修などにもバックアップ体制(有休扱い、費用負担)が取られるよう期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャー連絡協議会や地域のグループホームとの交流会を持っており積極的に参加している。また、筍掘りや地域のどんど焼きの行事などには近隣の事業所と一緒に参加し交流を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居、通所利用者に対しては、面接や事業所の見学、体験入所などにより馴染めるよう努めている。通所利用者は一定期間の体験を経て通所しているため入所利用者と馴染んだ生活をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々人の出来る範囲で食材の買出し、調理の準備、後かたづけ、洗濯物たたみなど家事を職員と一緒にやっている。きゅうり刻みやりんごの皮むきが得意な利用者には職員が依頼すると、手慣れた手つきで得意そうに嬉々として取り組んでいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切に、言動や顔の表情から、また、生活の様々な場面で「どちらにしますか」というように利用者の自己決定を尊重した話かけをしている。朝食は、利用者の希望をや体調を考慮してそれぞれの時間帯にしている。帰宅願望の強い利用者にはタイミングを見て外に誘い出して願望をかなえるなど常に利用者の思いの把握と実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から日常生活で「出来ること・出来ないこと」を聴いて生活単位ごとに記入し、それに対するポイントケアを記入した資料をベースに利用者、家族の意向を確認し全職員で介護計画を作成している。本人、家族には訪問時、電話、郵送で了解をもらっている。	○	介護計画は利用者本人だけでなく、家族の署名若しくは記名捺印を得ることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新に合わせて介護計画の見直しをしている。24時間の介護記録やカンファレンスなどで情報を共有し利用者、家族の意見、要望を聴きモニタリングして見直しをしている。、利用者の心身の状況の変化が生じた場合はその都度見直し変更している。作成した介護計画は、本人、家族には訪問時、電話、郵送で了解をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型通所介護の運営を昨年からはじめ3名の利用者を受け入れており時間延長にも柔軟に対応している。利用者の買い物、通院などにも柔軟な支援に努めている。また、近くの障害者施設からの依頼で、ホームヘルパー2級の資格を持つ障害のある男性のボランティアを週2日受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族、本人の希望に添って決めている。協力医療機関でもある同法人の病院は、24時間相談体制を取っており2週間に1度往診がある。地域の精神科医も往診、投薬など様々な相談に応じてくれる。職員が通院の支援をすることが多く、家族と連絡をとりながら適切な医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、「重度化及び看取りに関する指針」を家族、本人に説明して署名をもらっている。指針は事業所としての看取り介護の考え方、内容、開始など具体的に示している。管理者、職員の2名が常勤の看護師であり、現在バルンカテーテル留置の利用者も対応している。重度化した利用者にも快適な生活が送れるよう援助していきたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活歴、性格などを把握し一人ひとりを尊重して言葉づかいや対応に配慮して接している。呼び名もみな同じでなく、先生をしていた利用者には『〇〇先生』家族がさん付けで呼んでいた場合には『〇〇さん』などと長年馴染んだ呼び名で呼んでいる。記録類は指定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはあるが、押し付けることなく見守り中心の介護に努めている。訪問時、歌の好きな利用者が歌うと一緒に歌う利用者、その横でじっとしている利用者、朝食を食べさせてもらっている利用者などそれぞれ自分のペースで職員と一緒に過ごしている様子が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しに出かけたり、調理の準備、配膳は職員と一緒にっており、また、職員と話しながら楽しそうに食事を取っている風景が見られた。8月15日の終戦記念日には「すいとん」、2月には郷土料理の「しもつかれい」を作って楽しんでいる。おやつも手作りのお菓子などを出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から夕方まで本人の希望に添って対応しているが、午前中は通所の利用者が入浴することが多い。入浴を促す工夫として先生していた利用者には、『教育委員会が来るからきれいにしましょう』などと個々の生活歴を参考にして入浴するように支援している。管理者は、夜間にも入浴ができないか検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事は自ら選んで楽しみながらやっている。兎や烏骨鶏を飼っており小動物と触れ合うことができる。庭先の畑で野菜を作ったり、園芸を楽しんだり、月1回の生け花、将棋、食材の買い物、ボランティアの方とお饅頭づくりなど多くの行事を取り入れ支援している。定期的な週各1回パンと飲み物(ヤクルト)の移動販売があり買い物を楽しんでいる。希望者には夜間帯に酒や状況に応じて紅茶や梅酒なども出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1回程度行く食材の買い出しや、季節ごとに行われる地域の行事、事業所の行事(りんご狩り・ドライブ他)など外出の機会を年間10回以上持っている。季節、天候を見て隣接の施設の周辺や、スポーツセンターの敷地内を散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠はしていないが、センサーや、鈴が鳴るようにしてある。常に利用者一人ひとりの動きに注意を払っている。現在、徘徊の利用者はいないが事故防止も考慮して警察の安全課に協力依頼をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画書(地震・水害を含む)を今年度作成した。災害全体に亘っており教育計画なども示されている。避難訓練は年2回計画しており11月に実施する予定である。隣接の同法人の施設には夜間も5名の職員がおり協力が得やすい体制になっているが、地域住民、地域消防団などの関係機関との連携を築くことの必要性を認識している。	○	訓練は、計画、実施、確認、対策のサイクルを回して継続する必要があります。「消防計画」に基づき全職員参加で実施されること、また、重度化した利用者、車いす使用者の避難方法についての検討を期待します。訓練時、地域住民、地域消防団の参加についても検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夕食の副食は業者に依頼していることから献立は、夕食の副食に合わせて栄養のバランスを考え職員が作成している。水分、食事摂取状況を確認しケアに役立っている。特に夏季は脱水予防のため常に声かけをして水分摂取を促している。献立は専門の方の指導は受けていないが今後指導を受けることを検討している。	○	献立は、定期的に栄養士などの専門的な観点からアドバイスを受けることを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車いす利用者が不自由なく移動できるスペースを確保している。テーブルが置かれているスペースの他に一段高く畳のスペースもある。冬は炬燵が使用できるようになっており、くつろいだ家庭的な雰囲気がある。将棋を指したり、通所者の午睡の場所になったり多目的に使用している。清掃も行き届いている。壁には事業所の内外で行われた行事の写真などが掲示してある。月1回行われている生け花を居室や共同空間に飾ったりして季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳、フローリングの部屋があり、大部分の利用者はベットを使用している。持ち込みの制限はしていないがあまり多くの持込はしていない。テレビ、箆笥、仏壇や遺影を持ってきている利用者もあり、その人なりの居室作りをしている。		